

## 「はむらの授業指針」 活用方法

どんな資料も、活用しなければいわゆる「絵に描いた餅」になってしまいます。肝心なのは、「習慣的な活用」を図ることにあります。

教育委員会では、指導主事等による日々の授業観察、教育委員による定例学校訪問等で活用してまいります。各学校においては、校長研修会でお話したとおり、次に示す活用を継続的に行うよう、お願いをいたします。

### ① 人事考課の授業観察・面接等での活用

- 授業者は、特に観てもらいたい項目にチェック（レ点）を入れ、校長・副校長に事前に提出する。
- 校長・副校長は、授業者がチェックした項目を中心に観察を行い、面接での主な話題とする。

### ② 羽村市教育研究会における活用

- 全ての部会において、授業観察とその後の研究協議で活用する。



年度当初、第2号で述べたとおり、組織の協働体制の確立には、次の2つが必要です。

- ◆ 目標への意思の統合
- ◆ そのためのコミュニケーションの活性化

各学校と教育委員会とが、「はむらの授業指針」を共通の目標として活用することで、学習指導要領の趣旨の実現に向けた授業づくりを組織的に進めていきましょう。

※ 次号から、「はむらの授業指針」の各項目の解説を連載します。

## 修行

京セラ名誉会長、KDDI 最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

自分に与えられた仕事に、愚直に、真面目に、地道に、誠実に取り組み続けることで、自然と欲望を抑えることができます。夢中になって仕事に打ち込むことにより、怒りを静め、愚痴を慎むことができるのです。また、そのように日々努めていくことで、自分の人間性も少しずつ向上させていくことができるのです。

その意味では、「働くこと」は、修行に似ています。

出典：「稲盛和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ 教育に携わる私たちは、常に職務の遂行を通して自らの人間性の向上を目指したいものです。